

# 営 農 情 報

令和4年4月26日  
第9号

## 秋まき小麦の赤さび病に警戒！！

管内の多くの圃場で赤さび病の発生が確認されております。赤さびは干ばつで発生しやすくなりますので適期を逃すことなく防除を実施しましょう。

○赤さび病に効果のある薬剤

薬 剤 名	使用時期	処理濃度	散布液量 (L/10a)	備 考
ミリオネアフロアブル	4月下旬～ 5月上旬頃	4000倍	60～150	昨年赤さび病発生が確認された圃場は必ず散布する。
イントレックスフロアブル		2000倍	60～150	
アミスター20フロアブル		2000～3000倍	100～200	

## 秋まき小麦幼穂形成期以降の分肥について

圃場での生育差はあるものの、本年の幼穂形成期は平年並の5月5日頃迎える予定となっております。2回目の分肥については幼穂形成期から5～10日後に実施することとなっておりますが、起生期追肥からの日数と葉色により判断しましょう。

無効分けつを抑制するため分肥時期は起生期追肥より2～3週間日数を確保してから施肥するようにしましょう。

分肥量については下表を参考に施用して下さい。

○秋まき小麦幼穂形成期の茎数別分肥施用量

茎数 (本/m <sup>2</sup> )	窒素追肥量 (kg/10a)	
	きたほなみ	ゆめちから
600本未満	4～6kg/10a	4～6kg/10a
600本～1,300本	2～4kg/10a	
1,300本以上		2～4kg/10a

※ご不明な点がございましたら、営農販売課までご連絡下さい。

J A み ね の ぶ 営 農 販 売 課  
TEL 0126-67-2334 FAX0126-67-2803